生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

まほろば

Hirosaki National Hospital

2015.3
第163号

後期看護研究発表会

2月3日に、平成26年度後期看護研究発表会を開催しました。演題は母子医療センターによる「早期接触による父性意識の変化」、外来による「大腸内視鏡検査において前処置不良となる患者要因の検討」の2題での発表でした。看護研究の目的は、その結果を実際の看護に活かし、患者様に還元することです。母子医療センターの研究は、父性意識を高め円滑な育児参加につなげることができる結果となっています。外来の研究では、内視鏡検査がより安楽・適切に検査を受けられるという結果になりました。どちらも看護研究の目的を達成できていました。

勤務時間内の開催にもかかわらず多数の出席があり、意見交換も活発に行うことができました。研究発表部署、ご協力いただいた患者様方、参加していただいた皆様にお礼を申し上げます。これからも看護研究を通し、患者様へより良い看護を提供できるよう、スタッフ一同で努めます。

6階病棟看護師：前田　倖平

平成26年度第14回 リスクマネジメントフォーラムを終えて

3 月4日、リスクマネジメントフォーラムが当院大会議室で開催されました。このリスクマネジメントフォーラムは平成 13 年度から開催され、14 回目の今年度は『みんなで KYT（危険予知トレーニング）～安全行動の先取りをしましょう～』のテーマで実施しました。今回は2つの事例（放射線科内で発生した転倒場面と外来処置室での採血場面）事例を準備し、1.『何が危険か』2.『ポイントの絞り込み』3.『対策の立案』4.『行動目標の設定』の順でグループワークをしていただきました。各グループからの発表では、同じ事例の検討にも関わらず、対策や行動目標に違いがあり非常に興味深いものとなりました。最後に神村実行委員長から講評があり盛況のうちに閉会することができました。実施後のアンケートから、「危険予知トレーニングの重要性がわかった」「医療安全を通して多職種と交流ができてよかった」等の意見が寄せられ、非常に有意義なフォーラムであったと思います。今後も引き続いて医療安全対策のご協力をお願いいたします。

医療安全管理係長：坂本　浩志

新生児蘇生法講習会

3 月 1 日（日）当院地域医療研修センターに於いて、新生児蘇生法（A コース）の講習会が開催されました。

この講習会は、出生時に胎外呼吸循環へスムーズに移行できない新生児に対して、分娩に関わる産科医・小児科医・助産師・看護師が素早い判断をし、適切な技術を実施する事で、新生児の救命と重篤な障害を回避する事を目的に実施しています。

近年受講希望者は増加し、今年度は津軽・西北地域をはじめ大館市の開業医院・総合病院から、医師や助産師・看護師、更に救急救命士からも申し込みがあり、募集開始 10 日間で定員 24 名に達し、周産期に携わるスタッフの意欲の高さが窺えました。

講習会は、プレテスト・講義・蘇生人形とシミュレーション材料を用いての実技・シナリオ実技・ポストテストを行い、計 5 時間を要しました。知識面の事前学習をして講習に臨んでいますが、シナリオ実技では 30 秒毎に判断を求められるため、緊張で思う様にメンバーに行動を指示する事が出来なかったり、慌てて手技が上手くいかなかったりする場面もありました。しかし、皆が真剣に意見を出し合い確認を行いながらシナリオに沿って実技を繰り返していました。

インストラクター補助として参加していた私も、実技を通して日々の分娩を思い出しました。経験を積む程、元気な新生児の泣き声を聞くまで不安を抱えながら分娩に立ち会っています。自分が蘇生の技術を学び実践に活かせる様になる事で、母と新生児の笑顔の数は増えます。参加者が今日の講習で学んだ知識や技術を、今後の分娩時に活かして頂ければと思います。

母子医療センター看護師長：辻　富美子

平成２６年度ヒューマンスキル研修　電話応対スキルアップ研修を受講して

去る２月１６日（月）に職員を対象とした「電話応対スキルアップ研修」が開催されました。講師には盛岡を中心に様々な企業・当院をはじめとした病院等で講師を務められている大髙知佳子先生をお招きし、電話応対の基本の座学や録音再生のできる模擬電話を使った電話応対の実践を行いました。

電話応対はお互いの顔が見えない状態で、第一声を聞いただけで病院のイメージを決める大事なスキルです。声のトーンを上げて、わかりやすくハキハキとした受け答えで、相手の気持ちに寄り添って…とどれもコミュニケーションスキルとして基本的な事であるけれど、顔が見えない分なおさら心に留めて置かなければならない事を学びました。

模擬電話での電話応対の実践もさせていただきました。録音した自分の声は、思っていた以上に早口でビックリしました。そして、質問に対する答えに自信がないものがあったのですが、その自信のなさが声や受け答えにしっかり出ていました。この実践で現在の電話応対のスキルや声のトーン、話し方を客観的に知ることができました。また、自分の電話応対の長所や、どこを直せばよりよい電話応対になるのかを具体的に教えていただき大変ためになりました。

電話をかけた方が「この病院なら大丈夫」と安心していただける応対ができることを目指して、今回の研修で学んだスキルを日々の電話応対時に思い出しながら業務にあたりたいと思います。

管理課庶務係：山口　庸子

行事食～ひな祭り～

3月3日、ひなまつりのメニューは「ちらし寿し・ごま風味和え・すまし汁・オレンジ・三色花ゼリー」でした。ひなまつりの定番であるちらし寿しは、大きなすし桶で酢飯を作り、えび、うなぎ、卵、れんこん、さやえんどうと彩りよく盛付け、見た目でも楽しんでいただけるようにしました。また「桃の節句」にちなみ桃のゼリーもお付けし、患者さんに季節感を感じてほしいという願いをこめました。

ひなまつりは女の子の健やかな成長を願い、美しいひな人形を飾ってお祝いする、日本の春の伝統行事です。しかし、もともとは女の子の行事ではなく、男女共通の行事として厄払いや邪気祓(じゃきばらい)が行われていました。

これからも季節や行事を楽しんでいただけるよう、献立など工夫していきたいと思います。

管理栄養士：滝川　桃子

【シリーズ　緩和ケア】～医療用麻薬のラインナップ～

がんによる痛みを取り除くためには、一般的な鎮痛薬を基礎とし医療用麻薬（以下、麻薬）を併用することが適切と考えられています。現在使用可能な麻薬には、これまでのモルヒネ製剤、オキシコドン製剤、フェンタニル製剤に加え、2014 年からタペンタドール（錠剤）が仲間入りし 4 種類になりました。それぞれの麻薬には、錠剤や散剤、貼付剤、注射剤などがあり、すぐに効果が出る薬、効果が持続する薬など様々用意され、痛みと戦う患者さんに一番合ったお薬を医師が処方してお出ししています。また、これらのお薬は、副作用で増量ができない時や耐性で効果が落ちたりしないように、それぞれを切り替えて使うこともあります。

がんの治療と同じくらい大切なのが痛みの治療です。痛みがあると、やる気が出なくなったり、食欲が落ちたり、本来のがんの治療にも影響が出てしまいますので、何か痛みがある時には緩和ケアチームや病棟スタッフに遠慮なくお話しください。

副薬剤科長：西村　康人

外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表　（2015年３月１日現在）

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		石岡佳子	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		－	－	－	石岡佳子	－
消化器・血液内科		間山恒	－	高杉かおり	－	間山恒
		高杉かおり	松木明彦	松木明彦	間山恒	松木明彦
		佐藤年信	高杉かおり	佐藤年信	高杉かおり／松木明彦	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	－	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	佐藤啓	佐藤工	杉本和彦
		三上珠希	藤田円	三上珠希	藤田円	佐藤啓
外科		田澤俊幸	三上勝也	田澤俊幸	神寛之	三上勝也
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅
整形外科	午前	三浦和知	秋元博之	秋元博之	休診（手術）	秋元博之
		神裕道	三浦和知	三浦和知		三浦和知
		－	－	神裕道		神裕道
	午後	－	－	－		休診
脳神経外科		－	－	木村正英	－	－
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	●予約	●手術／検査	●予約	●手術／検査	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	弘前大学医師	神村典孝	神村典孝
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		木村秀崇	丹藤伴江	丹藤伴江	●妊婦健診（一般外来休診）	木村秀崇
		木村恵理子	谷口綾亮	田中加奈子		松村由紀子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	●手術（一般外来休診）	黒田令子	黒田令子
		三國谷由貴	－		－	－
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	－	－	川口英夫（午後）	－	川口英夫（午後）
女性専用外来		杉本菜穂子（※予約制／第１・第３火曜日午後診療）				
セカンドオピニオン		－	－	－	今充	－

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★　あなたの川柳をお待ちしています。

転勤族　櫻を待たず　北上す　（宮尾芭蕉）

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

患者相談窓口

『患者相談室』のＭＳＷ（メディカルソーシャルワーカー）が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元

Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構　弘前病院

責任者：副院長　小田桐　弘　毅

〒036-8545　弘前市大字富野町１番地
ＴＥＬ０１７２－３２－４３１１
ＦＡＸ０１７２－３３－８６１４
ＵＲＬ　http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/